

(様式2)

令和 4 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590100523		
法人名	社会福祉法人遊生会		
事業所名	高齢者グループホームまいらいふ岩室		
所在地	新潟県新潟市西蒲区西中694番地		
自己評価作成日	2022年9月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会 外部評価機関「あいエイド新潟」		
所在地	新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和4年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の窓からは弥彦山やのどかな田園風景を一面に見渡すことができます。自然環境に恵まれ、ご利用者は四季折々の風景を楽しみながら生活されています。施設周辺には、公民館や図書館、体育館等もあり、外出支援や地域の方との交流を図る上で活用させて頂いております。ご利用者様からは文化的な生活を営むことができるため好評を頂いております。

また、コロナ禍以前は、地域の方々からボランティアに来て頂いて交流を深めたり、イベントや地域行事がある際に声を掛けて頂いて参加をさせていただいておりました。コロナ禍が収束いたしましたら、以前のような地域と活発な交流のある施設にしていきたいと考えております。

事業所ではご利用者様一人お一人の認知症や心身の状態を観察しながら職員間で相談し、その方の生活リズムや意向に沿った生活を提供出来るように努めています。ご家族様からも信頼を寄せて頂いております。職員は内・外部研修でスキルアップに努め、ご利用者様にとって一番の理解者になるべく努力しています。ご利用者様にとり、私達職員が時には家族の一員となって寄り添い支え、終の棲家となれればと思ひながら支援させて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営母体は、新潟市西蒲区内に特別養護老人ホームや短期入所施設、小規模多機能型居宅介護・グループホームを運営している社会福祉法人である。グループホームは複数あり、サービスの向上に向けて連携し高め合っている。

事業所は西蒲区の旧岩室村の平野部にあり、道路を挟んで区役所出張所や公民館・岩室図書館、体育館や野球場、消防署派出所などの公的施設がある場所に建っている。鉄筋2階建ての建物には地域密着型特別養護老人ホームが併設され、施設機能の共有や体制の協働が図られている。また、敷地内には小規模多機能型居宅介護事業所があり、利用者の中には、小規模多機能型居宅介護からグループホームへと移行した方もおられる。敷地内に野菜畑を作り、利用者及び職員が、栽培する楽しみと収穫の喜びを味わっている。

事業所は住宅地からやや離れた場所ではあるが、多くのボランティアや訪問活動による交流、災害訓練や文化祭へ参加活動などが行われていた。コロナ禍において地域住民との交流活動は自粛しているが、公設施設周辺への散歩や文化祭の作品参加、外出活動は継続している。多くの利用者は旧岩室村の出身者であり、外出時にはなじみの風景の確認や付き合いのあった人との出会いも多く、利用者に喜ばれている。面会に制約がある現状の中で利用者と家族がつながりを継続できる方法や、地域に向けて認知症対応型サービス事業所としてなにか発信ができないか等、検討や企画を続けている。

管理者は一方的に決めて指示することはなく、課題解決には職員が意見を表出しやすいように助言したり雰囲気を作り、合意形成できるように話し合いを大切にしている。事業所理念の実践や柔軟な日課変更や活動を通して、利用者が自分らしく暮らせるよう支援することに職員がやりがいを持っていることが感じられた。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念や介護理念を基とした事業所理念を作り、職員一同共有している。実践として、家庭的な環境の元で利用者様の不安を取り除き信頼関係を築けるよう努めている。	法人理念を基本として事業所理念(笑顔の介護・思いやりの介護・気づきの介護)をつくり、日々の生活の中で利用者の意思や欲求を尊重して、理念の実践を行っている。理念の実践については、スタッフ会議や朝礼の中でのケアの振り返りの場面で理念の内容に立ち返りながら確認をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨今はコロナ禍で制約があるものの、日々挨拶を交わし、公園を散歩した際にはお声がけをしている。また、地域の情報誌等から積極的に情報を収集し、商業施設の催しに参加するなど交流を深めている。	利用者の多くは旧岩室村出身者であり、外出の時に風景を見たり馴染みの人と出会う中で、地元で生活していることを実感している。コロナ禍では地域住民を招いて直接交流ができていないが、公民館での作品展に利用者の作品を出展をしたり、事業所付近を散歩している際に挨拶を交わす中でつながりを保っている。また、地元の交流館に花の寄植えを置くことを計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の役員の方、民生委員、地域やご家族の代表が参加する運営推進会議を通じて事例を挙げ理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまで2か月に一回の頻度で開催している。昨今はコロナ禍の影響で書面開催をし意見交換を行っている。評価いただいた内容や意見については、職員と共有し、実践することでサービスの向上に繋げている。	利用者代表・家族代表・地域住民代表・自治会役員・地域包括支援センター・法人内グループホーム事業所及び併設施設代表のメンバーで開催している。コロナ禍においては書面開催となっているが、委員からの意見は書面送付の際に記入用紙を同封して記載してもらっており、いただいた助言等に基づいて実践している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所の方とは介護保険制度についての照会や困難事例についての対応など普段から連絡を取り合い、必要があれば窓口で相談もしている。ご利用者様には生活保護を受けている方もいるので定期的に様子もお伝えしている。	日々の実践の中での課題は市に相談をしている。最近では、経済的な課題のある利用者に対して地域包括支援センターや生活保護担当者に相談して課題解決に向けて取り組むなどの例がある。また、地域包括支援センターが企画するさまざまな研修に参加し、事業所の質の向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会や施設内研修を定期的に開催し、禁止となる行為について認識を深めている。また身体拘束の観点から玄関の施錠はせず、職員同士連携をすることで離設や事故を防いでいる。	委員会の開催、研修の実施を通して身体拘束をしないケアの知識及び技術を高めている。また精神安定薬等の使用については安易に頼ることなく利用者等と話し合っている。管理者は、職員の不適切な対応の兆しが見られたら、積極的に職員へ指導を行い、会議時や朝礼等を通して職員間と協議の機会を持っている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に内部研修を行い日々の対応の振り返りの機会となっている。言葉の掛け方によっては虐待に繋がることからスピーチロックをやめようという目標を施設内に掲げ職員の意識を高めるよう努めている。	研修の実施及び職員向けのポスターによる啓発活動を行い、虐待をしない意識を高めている。また、日々の介護の中で、行き過ぎた「親しみ」が虐待に向かわないように、職員間で話し合い、接遇の向上や業務改善できることは実施している。また、管理者はストレスマネジメントの研修を受けており、職員へのストレスチェックの実施等、心理的負担の軽減策について実施していきたいと考えている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の手続き中の方や利用中の方がいらっしゃるので、施設でも適切に支援ができるよう研修会を開催し、職員の知識を深めたい。また必要に応じて関係者と協力しご利用者の支援に繋げたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約の際は不安や疑問点がないように、契約文は一文毎に相手と確認をし、ご理解の上で捺印を頂いている。また、後日問い合わせがあればその都度丁寧に説明をしご理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のコミュニケーションの中でご利用者様の希望や困りごとを伺っている。畑仕事や縫物、ドライブ等の希望は実現している。ご家族とは面会や受診の際の様子をお伝えし、頂いたご意見や要望を運営に反映している。	利用者の思いは日々の生活の中でくみ取るように努めている。自分で選んだものを買いたい等の要望には外出の機会を設けたり、スーパーのチラシを見て食べたいものがあったら献立の変更や工夫ができるよう柔軟な体制を構築している。コロナ禍で面会制限を行う中でも、電話で家族に日々の様子を伝えながら意見が言いやすいようにこまめにコミュニケーションをとっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は管理者や本部職員を通じて、また定例の管理者会議にて代表者へ聞き入れられている。意見はスタッフ会議や朝礼などでフィードバックされ、業務改善や行事などに職員の提案が反映されている。	日々の業務や会議の中で職員から出されたアイディア(出前企画)や提案(手すりの設置・日課の変更等)を採用し、実践しており、職員の意見が出やすい環境がある。また、管理者は月2回の会議において経営者へ意見や要望を伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部職員を通じて職場環境や条件の改善に繋げている。また資格取得を奨励しスキルアップできるよう支援をしている。職員個々の持ち味を評価し、待遇面でも職員のやる気を保てるよう改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人では資格取得を奨励しており受講費用を全額負担する制度がある、また法人内外の様々な研修も案内周知し、職員のスキルアップ、モチベーションアップへと繋がっている。オンライン研修用のPCも導入した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の勉強会や研修に参加し交流をはかっている。また地域のケアマネと積極的に情報を交換している。職員にはスタッフ会議や研修を通して伝達を行い職員の意識向上と実践に活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談でご本人やご家族から普段の状況、要望、困り事などを確認し、施設で共有している。利用開始時には声掛けや接する機会を多くとり、安心していただける良好な関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談で家族の想いや困り事などを確認し共有している。また受診の時でお会いした際や広報誌、手紙などで普段のご様子やホームでの取り組みなどを報告し関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人ご家族の意向を伺い、必要な支援を見極めている。その中で当施設でのサービス内容をご説明をし、必要があれば法人内外のサービスの利用を促すなど柔軟な対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な環境作りを行い、家族のような温かみのある介護サービスを提供している。また食事の盛りつけや片付けなど家事を手伝っていただいた際にはお礼と感謝の気持ちを伝え、双方良い関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回手紙を書き、ホームでの様子や日々の写真と一緒に郵送している。広報誌も隔月で発行し、普段のご様子をお知らせしている。受診の付き添いは家族にお願いしており、共に支えあう関係を築いている。	管理者は家族の役割として、利用者の心の安定が継続するような関わりを重視している。コロナ禍において共に外出や帰省はできないため、家族が少しでも安心できるように利用者の笑顔の写真を手紙に添えて関係の継続に取り組んでいる。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場所での買い物や散歩、ドライブの支援をおこなっている。コロナ禍で対面での面会はできていないが、オンラインで行える環境になっている。また電話やお手紙でやり取りをされている。	入居にあたっての面接時に生活歴を聞くとともに、入居後の日々の生活の中で得た情報を職員間で共有し、それまでの馴染みの関係性が途切れないように努めている。利用していた商店街に出かけて、道中の風景や街並みを認識してもらったり、それまで関わってきた人との再会の機会を作ることで関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や利用者同士の相性を把握し一人一人が孤立しないようにしている。職員がつなぎ役として、一緒に話をしたり、作業、体操等参加したり交流がもてるよう工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も移動先の施設に挨拶に伺ったり、ご家族様へはこれまでの感謝の気持ちをお伝えし手作りのアルバムなどを作成し贈っている。今後も相談にのり、良い関係性を大切にしていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どのように暮らしたいか思いやご希望を入居時に話を伺っている。日々の会話や表情から思いを汲み取れるよう相手の立場で考えることを習慣化し信頼関係が築けるよう努めている。	入居前に、どのような生活日課だったか、好きな話題、趣味等を聞き、関係づくりのための情報を得ている。職員が都度確認できるように情報はケースファイルに集約して見やすいようにしている。思うように意思表示ができない利用者には、表情や関わりの中から思いをくみ取り検討している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申し込み時や契約時に生活歴や趣味、生活の状況など聞き取りを行っている。これまで利用されていた事業所からも情報をもらい職員間で共有している。	聞き取った生活歴やそれまでの介護サービスの利用状況については、情報をファイルに蓄積している。事前面接時には、持ち込む家具について本人・家族と話し合いをしたり、裁縫道具や絵画道具を持ち込み趣味を継続している事例がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の動作や表情、口調などを良く観察するとともにバイタル測定、食事量、排泄の状態を考慮しその方の総合的な心身の状態とできることの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族、担当職員とアセスメントを行い介護計画書を作成している。また3か月に1回モニタリングを行い、課題が生じた場合は職員間で検討している。また家族や主治医にも相談をしカンファレンスを行いながら介護計画の見直しをしている。	介護計画作成にあたっては、利用者が安心できる生活の提供、利用者自身の力を発揮してほしいという観点で計画を立てている。計画の見直しには本人に参加してもらって意見を言ってもらったり、家族の意見も尊重している。介護計画に基づく支援により、紙パンツから布パンツの使用に変わるなど、生活機能の向上も見られる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付いたことや課題としてとらえたことを生活記録や連絡ノートに記入したり朝礼や申し送り時に伝達し情報を共有している。声掛けや食事形態、スキニップ、ジェスチャー等の改善を実践し、介護計画の見直し等適切なサービスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様のニーズに対応するため、訪問理美容や訪問歯科などのサービスの利用ができる体制になっている。また、希望によっては個人の買い物にも同行し、受診の付き添いを行うなど柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で制約はあるものの、地域の催しに参加するなど地域の交流を大切にしている。また公民館や図書館、役場で本を借りたり、情報誌をもらってきたりと文化的で豊かな生活ができるよう支援している。またなじみの店での買い物も楽しみとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族が希望するかかりつけ医へ家族同伴で定期受診されている。緊急時のご家族の意向を伺い職員が同行することもある。必要に応じて医師宛てに情報提供を作成し、直接連絡をとるなど適切な医療を受けられるよう支援を行っている。	利用者の多くは入居前からのかかりつけ医を継続している。入居前にはかかりつけ医による健康診断を実施するなど、事業所の機能について医師からも理解を得ている。家族も協力的であり、受診の方針や情報共有などの協力関係ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置はないが緊急時や介護職員だけでは対応出来ない場合、併設の特養看護師に応援を依頼する体制となっている。また必要に応じて日常の関わりの中で捉えた情報や気づきを記したメモを受診時に家族にお渡しし支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用様が入院された際は、医療機関と情報交換をし、安心して治療に専念し早期に退院ができるよう努めている。またご家族からの相談にも対応しご利用者様にとって最善の方法を選択できるように医療機関との関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には医療行為などが必要になった場合、医療的機能や設備面で利用継続出来なくなることがあることを説明しご理解いただいている。重度化した場合、ご本人・ご家族・主治医と相談しながら出来る限りの対応を心掛けている。また状態の変化に伴い随時話し合いの場を設けている。	現在事業所では「看取り」は行っていない。家族等には入居時及び利用者の状態変化の都度、事業所のサービスの限界を説明し同意を得ている。かかりつけ医と看取りについての話し合いは行っていない。	本人本位の介護に向けて質の向上を目指すためにも、現在実施していない看取りを除外するのではなく、意識し続けていけるよう、併設の特別養護老人ホームの看取り研修に参加したり職員間でACP(人生会議)について話し合うなど、「看取り」について事業所において継続的にテーマとして取り上げていただきたい。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や急変時は落ち着いて対応ができるようマニュアルを用意し実践をしている。また定期的の特養と合同で消防署指導の救命救急法やAEDの講習を受けており、緊急時の対応について訓練をしている。	コロナ禍により、マニュアルは都度見直しや追加・変更しており、現状に合わせて実践できるようなものとして活用している。救急法研修は年2回開催し、全員が実践できるよう定期的な受講できる体制である。	深夜時間帯は建物内の職員配置が少人数になるため、併設事業所との協力体制について具体的に整備・明文化したり、応急手当研修等を実施することにより具体的、実践的な緊急時対応の手技を身に付ける機会を設けることで、より安心安全な事業所になると思われる。さらなる検討を期待したい。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設特養と合同で昼夜を想定し避難訓練を行っている。日中であれば火災は火元の場所により役割が決まっており迅速な対応を行うことができる。夜間の場合は限られた人数で対応するため、ホームだけの訓練も定期的実施している。	火災や地震のほか水害訓練(利用者を建物の2階に誘導)を行っている。二次避難先は近くの体育館となっており、コロナ禍前は地域の避難訓練にも参加していた。事業所では食料や電源について必要な備蓄を用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の尊厳を大切に、温かみと節度のある言葉使いや態度で接するよう常に心がけている。また誘導の際はプライバシーを尊重しつつ認識できるような声の掛け方を工夫している。	利用者の尊厳を大切にすることを意識した言葉かけや対応に努めている。管理者は職員の言葉かけや対応に少しでも違和感を感じた時は、確認や指摘・指導を行ったり、朝礼の機会等オープンな場で話し合いを行い、尊厳を大切にサービス提供に努めている。また、同性介護を標準としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で思いや希望を汲み取るように努めている。一呼吸置いた間を大事にし見守りや声掛けを行う等その方の動きを妨げることなく自由に動いていただけるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活環境や嗜好を把握し、生活のペースを大切にしている。ご利用者様から行きたい場所や、畑仕事がしたい等具体的な要望を頂いているので出来る限り希望に沿い、達成感を感じていただけるよう支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容ではその方に合った声掛けを行い、身だしなみの支援や気温に合った服装と一緒に選ぶなどの支援を行っている。また理美容もご本人の希望を伺い訪問理容のサービスを提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや味見など分担していただいている。旬のものや畑で収穫した野菜を使った献立を一緒に考えたり、行事食やおやつ作りのリクエストをお聞きし一緒に調理を行うなど楽しんでいる。	食事に関する一連の流れに利用者が関わってもらえる機会を作っている。スーパーのチラシを見て食べ物の話題を提供し、食べたいものがあれば献立を変更する等、柔軟に対応している。コロナ禍前は2日ごとに利用者と地元の商店街へ買い出しに出ていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取の大切さをご利用者に説明しこまめに声掛けを行っている。好んで飲めない方にはゼリーを提供するなど工夫している。食事面では管理栄養士に献立の見直しをしてもらい栄養バランスが取れた食事の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人に合った声掛けを行っている。ケアが不十分なところは支援をしている。口腔状態によっては訪問歯科を利用し衛生保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄していただけるように排便のリズムとなるよう毎食後にトイレの声掛けを行い習慣となるよう支援している。個々の排泄パターンを把握したり様子観察からタイミングの合った誘導になるよう支援を行っている。	一部の利用者は夜間ポータブルトイレやおむつを使用する場合もあるが、日中はトイレでの排泄援助を目指している。排泄記録をとり、声かけ等誘導のタイミングを検討することにより排泄状況が改善した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士から便秘改善の食べ物について助言をもらい、油脂や乳製品が良いという事で献立に取り入れている。改善出来ない場合には主治医との相談で服薬も併用し予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回を基本としているが、本人の希望や家族の意向なども考慮し柔軟に対応している。目安として入浴のスケジュールは決めてはいるが本人の意思決定を大事にしている。	夕方からの入浴体制はないが、毎日午前・午後に入浴できる時間を確保しており、1日おきに入浴している利用者もいる。入浴剤等を使用して入浴を楽しんだり、季節感を感じられる工夫をしている。また、入浴を渋る利用者には強要することはなく、タイミングを見たり予定の変更をしたりして臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や身体状況に配慮しつつも休める環境作りに努めている。ソファや畳スペースにはゆっくり休んでいただけるようクッションやひざ掛け等を置き自由に利用できるよう整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋をファイルし職員全員が確認できるようにしている。内服薬の変更が生じた時は受診記載表や連絡ノートに記載し情報を共有し状態の観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者個々の情報を共有し出来る事や好きな事、日課となっている事などを継続できるよう支援している。散歩やドライブ等気分転換を行ったり畑仕事や調理や食事の準備などの場面で参加していただき張り合いとなるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為スーパー等の買い物支援は控えているが馴染みの商店での買い物には出掛けている。また施設周辺は図書館や公民館、役場があり気軽に外に出かけられる環境にある。本を借りたり役場では情報誌を持ち帰ったり地域の情報収集にも活用できている。	外出支援を、利用者の気分転換や日常生活の刺激、記憶を思い出すきっかけ等に活かしている。個別であったり、小グループであったりと様々な形で積極的に行っている。コロナ禍においても散歩は日常的に行っており、外出の機会の企画実施は、職員の仕事のやりがいにもつながっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より本人が自由に使えるお金を預かり保管している。希望される方にはお預かり金から買い物ができるよう支援している。お金の使い方については家族に意向を伺い支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人への電話や手紙、年賀状の送付は自由にやりとりができ、希望があればいつでも支援をしている。電話や手紙は双方にとっても喜んで頂いており、引き続き喜んでいただけるよう職員も努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアや居室窓からは田んぼや山の風景が見え四季を感じて頂けており日々の会話からも季節の移り変わりを楽しまれているのが伝わってくる。落ち着いた環境作りにも努め室温、電気の明るさ、職員の動作、声のトーン、物音などにも配慮している。	適度な広さのフロアに、テーブル席の配置の工夫や照明の配慮、また数人が座ったり横になったりたみ物をするとき使用する台を設える等、利用者が過ごしやすくなるよう細やかに対応している。利用者が使える掃除用具を用意し、共に使用できるように配置している。献立や本日勤務している職員などの情報を利用者にはわかりやすいように掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方々と会話ができる座席配置になっている。また、自由に利用できる、ソファや畳スペースがある。音楽やラジオを聞いて寛いだり、うたた寝される方もおられ思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の生活様式に合わせ家族の意見も取り入れ使い慣れた家具や日常的に使用していた小物など持って来てもらい居心地良く過ごせるように工夫している。家族写真やアルバムを飾られたり手作りの千羽鶴など飾られている方もおられる。	利用者本人が落ち着いて過ごせるように、家族と相談して馴染みの家具や日用品、趣味の道具等を持ち込んでもらうようにしている。家具の配置や日用品を置く位置、掲示物の飾りなど利用者と共に場所を考えて行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子を使用されている方もおられ、安心して移動できるよう環境整備に努めている。また、ほうきや塵取りなどはわかりやすく目につく所へ置き誰もが使用できるようになっている。トイレも場所が分かりやすく認識できるように大きめの標示を行った。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				